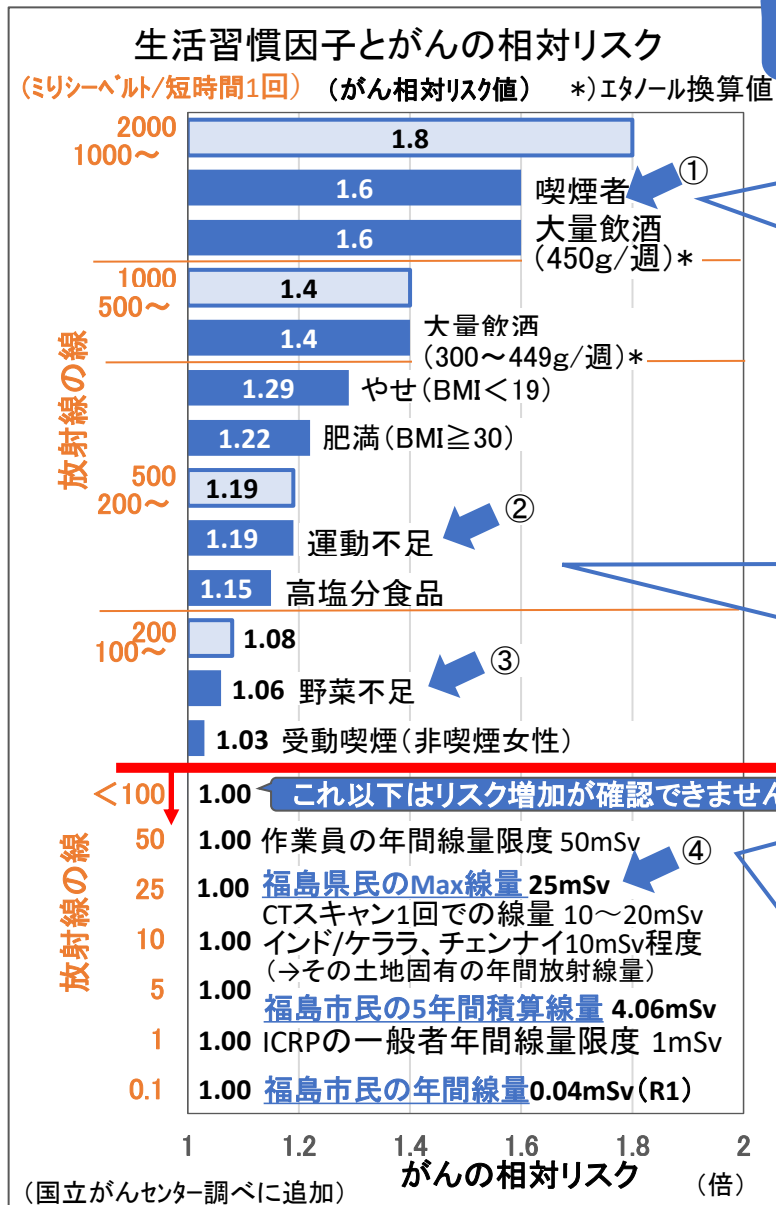


IV-1-⑥放射線のリスク比較(生活習慣因子とがんの相対リスク)

私たちは様々ながんの原因に囲まれて暮らしています。
放射線とその他要因のリスクを見える化し、相対的な関係を理解することが重要です。

例えば、運動不足や野菜不足によっても、がんになるリスクが増える(図の①1.19倍、②1.06倍)ものの、一方原子力事故による被ばくのリスク増加は確認できない(Max線量25mSvでも同③1.00倍)低いレベルとなっています。(国立がん研究センター公表)



図の青色の棒線はがんになる因子で、数値はその相対リスクです。詳しくは↓

図の解説1

・①の喫煙者は喫煙しない人と比較し1.6倍のリスクがあり、それは、1000~2000mSvの放射線被ばくと同じ、という意味です。

図の解説2

・②(運動不足)は1.19倍のリスクがあり200~500mSvの放射線被ばくと同じ
・③(野菜不足)は1.06倍のリスクがあり100~200mSvの放射線被ばくと同じ

図の解説3

・④はがんの相対リスクが1.00倍ですつまり、がんになるリスクは増えないという意味です(100mSv以下ではリスクが増えない)。
・また、ケララやチェンナイは昔から10mSv/年間の放射線量ですが、それでもがんになるリスクは増えず、福島市民の4.06mSvはそれより下となっています。

出典: 環境省資料1(放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料)
同上資料1-2
福島県「県民健康調査」報告
ひろば505号(東北放射線科学センター理事長解説)
上記の資料を基に当会で作成

【相対リスクとは】

相対リスクとは、生活習慣因子がない人(被ばくしていない人)を「1」とした時に、生活習慣因子を持つ人(被ばくした人)のがんリスクが何倍になるかを表す値です。

喫煙や大量飲酒の習慣は、1,000 ~ 2,000 mSvの放射線被ばくと同程度の発がんリスクがある(1.6~1.8程度)と推定されています。